

4月6日から15日までは春の交通安全週間です。

先日、当校の教官から突然こんな質問を投げかけられました。

「社長、信号の"赤・黄・青"って、知ってますか？」

私は自信満々に答えました。

「赤は止まれ、黄色は注意して進め、青は進め」

すると教官から、間髪入れずにこう返ってきました。

「それ、違いますよ。それに社長の運転は危ないって指導員みんな言ってますよ」

正直、驚きました。自分では安全運転しているつもりでしたが、プロの目から見ると危ないと映っていたんですね。深く反省しました。さて、信号機の意味を改めて確認すると

・赤信号:とまれ

・黄色信号:とまる(ただし、安全に止まれない場合は進んでもよい)

・青信号:安全が確認できれば進んでもよい。つまり青は「進め」という命令ではなく、"安全なら進んでもよい"。

交差点が混雑していれば、青でも入ってはいけません。

黄色も「注意して進め」ではなく、基本は"とまる"です。(安全に止まれない場合は、進んでください)

教官曰く、「実は一番事故が多いのは青信号なんです」とのこと。

“青だから大丈夫”という思い込みが事故につながるのだそうです。

香川県は「交通事故ゼロを目指す県 香川県」を掲げています。

まずは私自身が初心に戻り、そして皆さんと一緒に、安全運転を徹底していきたいと思います。

どうぞご安全に!よろしく願いいたします。

客話「認知症疾患医療センターの業務と役割」

認知症は加齢とともに誰にでも起こりうる身近な疾患ですが、近年では禁煙や生活習慣の改善により発症率は低下傾向にあるともいわれています。

一方で、高齢化の進行に伴い患者数自体は増加しており、今後も社会全体での理解と対応が求められています。

認知症は、脳の細胞が壊れたり働きが低下したりすることで、もの忘れが進み、これまでできていたことができなくなるなど、日常生活に支障をきたす状態を指します。

加齢による物忘れとは異なり、体験そのものを忘れてしまうなど、生活全体への影響が大きいことが特徴です。

当院では、アルコールや薬物依存に起因する認知症の患者さんも多く、専門的な診断・治療に加え、地域の医療機関や関係機関と連携しながら支援を行っています。また、ご本人やご家族からの相談に対応する専門医療相談や、かかりつけ医への研修なども実施し、地域全体で支える体制づくりに取り組んでいます。

さらに、認知症への理解を深めるための取り組みとして、2ヵ月に一度「うみのみえるカフェ」を開催し、交流や情報共有の場を提供しています。また、毎月「うみのみえるカフェ通信」を発行し、継続的な情報発信にも力を入れています。

認知症への正しい理解と早期の対応、そして地域での支え合いが、安心して暮らせる社会づくりにつながります。

今後も医療と地域が連携しながら、認知症と向き合っていくことが重要です。



医療法人社団 光風会 三光病院
認知症疾患医療センター
連携担当 高橋 幸恵 様